

(1日本史プリント 6-1)

第8章 2. 幕府の衰退 a. 列強の接近

- ① 18世紀後半 ヨーロッパなどにおける二重革命の時代
 - [1 産業革命]の進展→[2 貿易開始]と[3 寄港地]をもとめ日本近海に進出
- ②ロシア→18世紀後半、不凍港を求め、オホーツク海から日本海方面に進出
 - 1792 [4 ラックスマン]→根室来航、漂流民[5大黒屋光大夫]を届ける、
 - 1804 [6 レザノフ]→長崎来航、樺太・択捉を攻撃→ロシアとの緊張の高まり
- ③海防論 工藤平助「7 赤蝦夷風説書」→田沼、ロシアとの通商をも計画
林子平…「三国通覧図説」[8 海国兵談]出版→処罰される
- ④北方探検…1798[9 最上徳内]=千島探検、1808[10 間宮林蔵]=樺太探検
→東蝦夷地(1799)さらに松前・蝦夷地(1807)を幕府直轄とし、[11 松前]奉行に支配させる
 - [12 グローニン]事件(1811)をきっかけにロシアと関係改善→蝦夷地を[13 松前]藩に還付商人[14 高田屋嘉平]の尽力により
- ⑤1808 [15 フェートン号]事件…イギリス船、長崎に侵入
- ⑥1825 幕府、[16 異国船打払令(無二念打払令)]を發布、外国船撃退を命じる→1837モリソン号事件
→[17 高野長英]「戊戌夢物語」、[18 渡辺崋山]「慎機論」をだし鎖国政策を批判
→幕府の弾圧を受ける=[19 蛮社の獄]

18世紀後半になると、日本近海に[20ロシア]船やイギリス船・アメリカ船があらわれ、幕府は外交政策の変更をせまられるようになった。

1792年、ロシア使節[21ラクスマン]は根室に来航、幕府は[22近藤重蔵]・最上徳内らに択捉島を探查させた。1804年、ロシア使節[23 レザノフ]が長崎に来航したが、幕府の対応に怒り、樺太や択捉島を[24 攻撃]、両国関係は緊張した。こうして、幕府は対外防備を強化、1807年には蝦夷地をすべて幕府[25 直轄]とし、さらに[26間宮林蔵]に樺太周辺を探查させた。ロシアとの関係は[27グローニン]事件をきっかけに改善、1821年、幕府は蝦夷地を松前藩に還付した。

1808年にはイギリス軍艦[28 フェートン]号がオランダ船を追って長崎に侵入する事件が発生、その後も外国船が日本近海に出没した。幕府は、薪水・食糧を供給して帰国させる方針をとっていたが、1825年[29 異国船打払]〔無二念打払〕令を出した。1837年[30 モリソン]号事件が発生すると、渡辺崋山は[[31 慎機論]]を、高野長英は[[32 戊戌夢物語]]を書いて、幕府の対外政策を批判、これにたいし幕府は[33 蛮社の獄]で彼らを処罰した。

b. 文化文政時代と大塩の乱

- ①文化・文政[34 化政]時代(18世紀末から19世紀前半)
 - 11代将軍[35 徳川家斉](1837以降は大御所) 51年の治世
 - 特徴…放漫な政治→政治腐敗の進行、[36 財政]の破綻
 - [37 貨幣改鑄]と豪商への御用金賦課で切り抜けようとする

- ②農民層の分解の進展…関東を中心とした農民の[38耕作放棄]・離農、[39 博徒・無宿人]の増加
→1805[40 関東取締出役]を設置八州廻り
- ③[41 天保の大飢饉]の発生→各地で大規模な一揆、うちこわしの激発
甲州郡内一揆、三河加茂一揆など(1836)
- ④1837 [42 大塩平八郎]の乱発生→各地に波及(生田万の乱など)
大坂町奉行元与力・陽明学者 越後・国学者

寛政の改革ののち、[43 文化・文政]時代を中心に11代将軍[44 家斉]のもとで放漫な政治をすすめ、将軍を徳川[45 家慶]にゆずった後もつづけられた。([46 大御所]政治)。将軍や大奥の生活は華美となり、化政文化とよばれる[47 庶民文化]が花ひらいた。しかし、農村の荒廃がすすみ、関東では[48 無宿人]や[49 博徒]らによる治安の乱れも生じたため、幕府は1805年[50 関東取締出役]を設けて犯罪者の取締りにあたさせた。

1830年代[51 天保の大飢饉]が発生すると、各地で百姓一揆・打ちこわしが続発、大坂では大坂町奉行所の元与力で陽明学者の[52 大塩平八郎]が貧民救済を唱えて1837年、反乱を起こした。

c. 天保の改革

- ①19世紀中期(1841) 老中[53 水野忠邦](将軍 12代家慶)による改革
商品経済の進展に対処し、[54 絶対主義]化の方向を強める
- ②厳しい[55 儉約]令をだし、風紀を取り締まる→庶民の日常生活へも介入
消費欲望を抑制…人情本の出版禁止(為永春水を処罰)
- ③[56 人返し]の法…出稼ぎの禁止、都市貧民の帰郷を強制
- ④物価抑制策=[57 株仲間]を解散し、[58 流通の自由化]を保障
新興の在郷商人などを保護・育成
他方で、[59 棄捐]令を發布、貨幣悪鑄、商人への御用金の賦課など実施
↓
経済の混乱を招く→不満高まる
- ⑤[60 上知]令→大名・旗本の大反対を受け失脚

1841年、徳川[61 家斉]が死亡すると、12代将軍徳川[62 家慶]のもとで老中[63 水野忠邦]を中心に[64 天保の改革]が進められた。

忠邦は厳しい[65 儉約]令を出しぜいたく品や華美な衣服を禁じるいっぽう、人情本作家の[66 為永春水]らを処罰するなど庶民の風俗もきびしく取り締まった。また百姓の[67 出稼ぎ]を禁じるいっぽう、江戸に流入した貧民の帰郷を強制する[68 人返し]の法を発し、農村の再建をはかろうとした。

また自由な取引をすすめることで物価引下げがすすむと期待して[69 株仲間の解散]を命じたがかえって逆効果となった。また[70 棄捐]令も出すなど旗本や御家人の生活救済をはかった。こうした政策は、不景気や物価騰貴をいっそうすすめ、風俗の取り締まりと相まって各層からの不満を引き起こした。

さらに、1843年には、江戸・大坂周辺あわせて約50万石の地を直轄地にして幕府権力を強化しようと[71 上知]令を出したが激しい反発をうけ失敗、忠邦も失脚した。

(1日本史プリント 6-2)

第8章 2. 幕府の衰退 d、雄藩のおこり

①天保期…各藩における強力な藩政改革の実施

基調…1)[72 藩財政の立て直し]と[73 人材登用]

2)一揆・打ちこわしなど農民の抵抗への対応→[74 藩権力の強化]

②薩摩藩…[75 調所広郷]が中心

借金の帳消し、[76 甘蔗]専売の強化、[77 琉球]経由の密貿易拡大
洋式機械工場の設立(島津斉彬)、洋式武器の導入

③長州藩…[78 村田清風]が中心(←専売反対の天保大一揆がきっかけ)

借金帳消し、紙・蠟の専売を改革、諸国回船への貸付・委託販売など

④佐賀藩…藩主[79 鍋島直正]中心

[80 均田]制の実施＝本百姓体制の再建を図る、陶磁器の専売
洋式軍事工場の設置→洋式軍隊の導入

⑤土佐藩、水戸藩などでも改革進む

⑥西南雄藩の台頭

1)有能な[81 中下級藩士]の藩政への参加

2)三都商人や藩内の[82 豪農]・商人との結びつきをつよめる

第9章 近代国家の成立 1. 開国と幕末の動乱 a. 開国

18世紀後半、イギリスで[83 産業革命]がはじまり、工業化の波はにヨーロッパ各国やアメリカにおよんだ。巨大な工業生産力と軍事力を備えるにいたった欧米諸国は、[84 国外市場]や[85 原料供給地]を求めて、きそって[86 植民地]獲得に乗り出し、とくにアジアへの進出を本格化させた。

こうしたなか、清国が[87 アヘン]戦争でイギリスに敗れたことが日本に伝わると、1842年、幕府は[88 アヘン 異国船打払]令を緩和し[89 薪水給与]令をだした。しかし1844年、[90 オランダ]国王による開国の勧告にたいしてはこれを拒絶し、あくまでも鎖国体制を守ろうとした。

北太平洋を航海する貿易船や[91 捕鯨船]の寄港地として日本の開国を強く望んでいたアメリカは、1846年、[92 アヘン]を派遣し通商を要求した。こうしたなか、[93 1853]年アメリカ東インド艦隊司令長官[94 ペリー]は軍艦を率いて浦賀沖にあらわれ、大統領の国書を提出して日本の開国を求めた。ついで、ロシアの使節

[95 チャーチン]も長崎にきて、開国と国境の画定を要求した。翌年、再びペリーが来航すると、幕府はその威力に屈して[96 日米和親]条約を締結、ついで[97 イギリス]・ロシア・[98 オランダ]とも同様の条約を結んで、200年以上にわたった[99 鎖国]政策を放棄した。

①18世紀末～19世紀初 列強のアジア進出本格化→1842年 [100 アヘン]戦争での清敗北

・1842年 幕府、[101 異国船打ち払い]令を緩和し[102 薪水給与]令をだす。

・1844年 オランダ国王の親書で開国を勧告

・1846年 アメリカ、[103 ビッドル]を派遣、通商を要求→幕府は拒否

②[104 1853]年、アメリカ[105 ペリー]提督、浦賀へ来航、106 大統領の国書 の受け取りを要求

ロシアの[107 プチャーチン]、長崎に来航、[108 国境画定]をもとめる

↓

③1854年[109 日米和親]条約締結

1)アメリカ船への[110 燃料・食料]の供給

2)難破船や乗組員の[111 救助]

3)[112 下田]・[113 箱館]2港の開港

4)アメリカへの一方的[114 最恵国待遇]※を認める

※最恵国待遇…他の国が、アメリカよりよい条件の条約を結んだときは、アメリカは自動的にその条件も獲得できるという内容。

④イギリス・ロシア・オランダとも同様の和親条約を締結

* 日露和親条約…2港+[115 長崎]の開港、[116 千島南部]は日本領、樺太は雑居地

⑤幕府、老中[117 阿部正弘]=[118 挙国一致]体制をめざす

・[119 朝廷]や[120 外様]大名などの意見を聞く

・人材の登用→[121 徳川斉昭](水戸)の幕政参与、

松平慶永([122 福井])・島津斉彬([123 薩摩])・伊達宗城(宇和島)らの協力

革新派官僚(江川英竜・永井尚志・岩瀬忠震・川路聖謨)の登用など

・台場(砲台)の建設、大船建造の解禁

・海軍伝習所(長崎)、[124 蕃書調所]・講武所設置